

## 「修太展との出会いがキッカケで・・・！」

大阪府 交野市在住 田中隆夫



3年前の京都大丸の個展で、いきなり4号作品をGetさせていただきました。定年後の趣味を模索していたその頃、知人の佐藤さんから森崎先生の展示会を紹介され伺った次第です。その後勤めていた会社の美術部に入れてもらいいつしか3年たちました。いま20枚あまりの油彩作品を整理してこの3月にホームページに公開しています。お暇な方はどうぞ覗いてみてください。

[http://www.fan.hi-ho.ne.jp/t-tanaka\\_don/tnty-1.htm](http://www.fan.hi-ho.ne.jp/t-tanaka_don/tnty-1.htm)

油彩との付き合いのきっかけを作ってくださった修太先生にお礼を申し上げたい気持ちです。個展会場で、事務局の石崎さんのひとこと”まず一枚買って見ないと何もはじまらない。”は実に効果的なひとことでしたね。おかげで今年も京都日曜画家展に出品するつもりで頑張っています。ありがとう修太先生、これからもあったかい透明感のある作品を期待しています。



～色彩のオッセー～

## DM作品・紹介 I



海辺のレストランは心地よい風と陽射しでお客さんを待っている。まだ、栓を開けてないワインは赤のようだけれど・・・。

「南仏のレストラン」20F

## 「ちゃらんぼらんでなかった修太先生」

京都府 長岡京市在住 宮崎美保

3年前、福岡の友人に森崎修太という人の作品展が京都であるので行ってみたいと紹介され、京都大丸の隅っこのプチギャラリーを訪ねてみました。そこにおられたのはお髭の紳士・・・ですが、大阪生まれの私は、お会いした瞬間に漫才の“ちゃらんぼらん”の大西氏(関西の人は解るかと思いますが『ちゅーとはんばやなア～！』と突っ込む方。この人も絵を描いていますーとイメージが重なってしまい、以来テレビでちゃらんぼらんを見かける度に修太先生を思い出させてもらっています。(先生、ごめんなさい!)小一時間位だったでしょうか、先生は初対面の私に作品や取材で訪れた街々の話を熱心にしてくださり、画家らしからぬその誠実さぶりに爽やかな感動を覚えました。“ちゃらんぼらん”とは“いい加減”という意味ですが、修太先生の絵にはいい加減ではない先生のやさしさが滲み出ているようです。今回再び京都に先生と作品達が来て下さるとい事で『いらっしやいませ～！』これも大西氏のギャグの1つーモードで楽しみにお待ちしております。



写真左側(黒い服)が宮崎さん

## 「広がりのある空間」

大阪府 箕面市 松村久栄

私が京都を訪れたのは、3年ぶりの事でした。それも、1人で行く京都は、始めてでした。新しいマンションの廊下の白い壁面に、何か欲しいなあと、漠然とした思いをもって、会場に足を踏み入れたんです。すると、どの絵の色のトーンも、レイアウトも、私の心を落ち着かせてくれました。私が1点の絵に魅せられていたら、さりげなく、絵の説明や、森崎先生の事を話して下さった石崎さんと、初対面とは思えないぐらい、意気投合してしまったのです。1人で行かなかったら、こんな素晴らしい出逢いはなかったと思います。私が購入した絵は、青い海、オレンジの屋根、メロンシャーベットの空—この色のどの色が欠けてもこの絵は、存在しないと思えました。さっそく、壁に掛けてみたら、私の想像を越えて、迫力があるのに、やさしく、空はどこまで続くのかしらと錯覚をしてしまうぐらいの広い空間に、変わりました。今では我が家にも溶け込んで、なくてはならない空間を作りあげています。



京都展には、是非行かせてもらいたいと思っています。



第一回 京都修太展に訪れてくださった方々



## 画家の視線「シリーズ」

## 「京の散歩道」

京都大丸さんで初めての個展からもう3年になります。その時、祇園に宿をとってもらったのが和の旅館でした。近くには一力茶屋さんがあったりして趣のある塗り塀や紅殻塗りの格子の造りには往事の風雅と格調がただよ町の風景です。私は朝の散歩を日課にしていますので、画廊に入る前近くをゆっくり散策するのが楽しみでもありました。

細い路地で舞妓さんとすれ違ったりすると、その日が一日得をした気分にもなり・・・。

又、私の訪ねてみたかった高台寺を訪れた時の出来事です。なだらかな石畳の両脇に楓の木立が並ぶ坂をあがり、秀吉の没後その菩提を弔うため、ねねさんが開創した高台寺は桃山文化を偲ばせ見事なまでの庭。その庭を庭師さんが手入れをされていた。松の枝をはられるのに距離を計りながらいろんな角度から眺めなかな枝を切りはらわないのです。やっと意を決め「パチン！」と静かな庭に響く音で枝を切り払われたのです。1本の枝に15分位の時間をかけて。庭と松のバランス、なかなか良い仕事を見せていただいた様な気がしました。いたるところに歴史を重ねた懐の深い京都があり、今回第二回目の大丸さんでの個展で、どの様な出会いと新たな京都の顔が発見できるか楽しみです。

森崎 修太



## DM作品・紹介Ⅱ

“明日がいい日でありますよう～！”水平線の向こうに願いながら。



「サトリーニの夕焼け」3F



「ストリテア」6F

南国の花・別名極楽鳥は、元気をくれる花！赤をバックに。

昔、画家の暮らしたパリの街角で出会った女性がイメージに。



「パレルの女」6F



「黄金の花」6F

シンプルな構成 微妙な色調 黒が美しい作品

## お知らせコーナー 今後の「修太個展」予定

- '03 11/18～11/24 日・仙台三越
- '04 4/27～5/3 日・福岡三越
- '04 6月初旬・・・札幌三越
- '04 9月中旬・・・広島そごう
- '04 12/13～12/19 日・東京銀座

